

事前評価報告書

平成28年度第1回畜産試験場評価委員会

平成28年8月19日(金)

研究課題	機能性資材を用いたブランド鶏卵の生産技術の開発	
研究期間	平成29年から平成31年	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.0
2	研究内容の妥当性	4.0
3	研究内容の新規性、独創性	3.0
4	研究資源の妥当性	3.0
5	目的達成の可能性	4.0
6	期待される研究成果	3.3
	総合評点	3.6
<p>農業生産物のブランド化は地域における6次産業化を進める上で重要なパーツとなるもので、本課題は施策に合致したものであるといえる。また、現場からの要望に応える課題である。初年度に使える機能性資材を選抜し、その後、段階を踏んで、そのメカニズムの提示まで計画されており、目的達成の期待は大きい。確実にブランド化を達成するため、初年度の機能性資材の選抜に当たっては、幅広く検討することが望ましいと考える。全国的にはイメージだけでブランド化されているものも少なくないと思うので、科学的なエビデンスに基づく成果が得られることを期待する。</p>		

事前評価報告書

平成28年度第1回畜産試験場評価委員会

平成28年8月19日(金)

研究課題	肉豚の格付成績向上を目指した厚脂改善技術の確立	
研究期間	平成29年から平成31年	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.0
2	研究内容の妥当性	3.7
3	研究内容の新規性、独創性	3.0
4	研究資源の妥当性	4.0
5	目的達成の可能性	4.0
6	期待される研究成果	3.0
	総合評点	3.6
<p>TPP基本合意に伴い養豚農家の収益力向上は喫緊の課題であり、本課題はその収益力向上の一端を担う技術開発を行う課題であることから研究の必要性は高い。多くの関連する既往の成果をうまく組み合わせることで新規性はやや欠けるが、逆に多くの既往成果の情報を事前に収集・整理しており、効率的な研究の推進と確実な目標達成が期待できる。</p>		

中間評価報告書

平成28年度第1回畜産試験場評価委員会

平成28年8月19日(金)

研究課題	LED単波長を利用した効率的鶏肉生産技術の開発	
研究期間	平成27年から平成30年	
	評価項目	平均点
1	研究の進捗状況	3.0
2	研究継続の必要性	4.0
3	期待される研究成果	3.0
	総合評点	3.3
<p>今年度までの結果で、LED単波長の効果は発育段階で異なることが明らかとなり、出荷までの発育段階で異なる波長を組み合わせることで、出荷に数を短縮することが期待できる。そのため、技術開発に向けては、波長の組合せの検討などの継続的な研究が必要である。</p>		